

## 会議結果報告書

令和6年10月30日

会議の名称	令和6年度 第1回舞鶴市文化財保存活用地域計画懇話会	
種別	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和6年10月15日(火) 14時30分から16時00分	
開催場所	舞鶴市役所別館5階 中会議室	
出席者	<委員> 菱田会長、伊庭委員、松尾委員、吉岡委員、上杉委員、 京都府文化財保護課石崎課長(代理:向田委員)、竹原観光振興課長、 上羽建設部次長、松岡政策推進室長、日下部学校教育課長 <事務局> 福田部長他4名	
議題	1 開会 2 議題 (1) 短期計画の総括について (2) 中期計画に向けての課題等について	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	
傍聴者数	0名	
審議結果 及び 主な意見等	会議録のとおり	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 文化振興課 TEL ( 0773 ) 66 - 1019
-----	---

## 第1回舞鶴市文化財保存活用地域計画懇話会 議事録

日時：令和6年10月15日（火）14：30～16：00

場所：舞鶴市役所別館5階 中会議室

出席：（委員）菱田会長、伊庭委員、松尾委員、吉岡委員、上杉委員【オンライン】、京都府文化財保護課石崎課長（代理：向田委員）【オンライン】、竹原観光振興課長、上羽建設部次長、松岡政策推進室長、日下部学校教育課長（事務局）福田部長、三方次長、松本担当課長、佐藤、矢内

欠席：加藤副会長、澁谷委員、日向委員、八木委員、今安委員

会議内容：

1. 福田部長開会あいさつ

2. 議題

- (1) 短期計画の総括について
- (2) 中期計画に向けての課題等について

（事務局説明）【資料3】【資料4】

（委員からの主な意見等）

- 事業について8割方実施できていることを評価したい。
- 事業No.28「指定等文化財の確実な保存」について取り組みなしとなっているが、日常業務としてやっているのではないか？  
→（事務局）保存はされているが、取り組みとなるとどうかという認識。所有者からの相談を受ける・補助金を交付する等は常に行っている。事業としては指定文化財1つ1つをカードにして管理するような形をイメージしている。
- 事業No.47「他の自治体との連携の促進」について取り組みなしとなっているが、観光振興課主体でやっているのではないか。  
→（観光振興課）報告が出来ていなかったが、日本遺産協議会（舞鶴・横須賀・呉・佐世保）の4市で日本遺産の観光推進等連携をしている。各市の近代化遺産を広く知ってもらうための日本遺産MONTHを設け、それぞれ非公開の文化遺産の公開や他市の市町の遺産の紹介等幅広く取り組みを進めている。  
→（事務局）他市と比べても各課連携をして実施出来ていると評価を受けている。
- 計画の推進に向けて連携が出来ているか確認していくのも懇話会としての大事な役目だと考える。
- 日常業務で出来ていることはしっかり明記する。現在課題としていることは次期計画に明文化して示してもよい。
- 事業主体が関連団体でも良いのであれば、様々な事業を連携して行っている。

- 市民と一緒にやっていくというスタンスを大事にしてほしい。困ったときに声をかけるのではなく、初めから一緒にやるのが基本スタイルになるように。地域で活動している方の力を借りれば、そこから市民全体にも広がり、文化財保存の気持ちも広がっていくのではないかな。
- 出来ていない事業について、市民の方に一緒に考えてもらう機会を持ち、市民の方を巻き込んでいく仕組みづくりを行う必要がある。

(事務局) どこまでを取り組んだとして記載してよいのか分からない。

- 一歩でも進めば取り組んでいるとして記載して問題ない。大事なことは自分達で何が出来ていないか、課題は何かということをしっかり把握しておくこと。

- No. 32 「歴史文化遺産収蔵施設の集約化」について、集約化した後はどうするのか？市民に改めて調査をしてもらうことで、他の事業 No. と連携することも可能かもしれない。また、普及啓発事業として収蔵庫を開放して日本遺産 MONTH と一緒にやってみる、など今後の展開を考えていくことが大事。  
1つ1つの事業を単発で考えて出来た・出来ないを評価することも最低ラインとして必要だが、さらなる展開を考えることが大切。  
→ (事務局) 現在集約作業中。年1回展示会等を考えている。一緒に取り組んでくれる団体等を探している。
- No. 52 「特徴的漁業集落の町並み・文化的景観調査」について、吉原地区の調査が終わり、伝建地区になるかならないかではなく、今後どのように住民・市民に周知していくか、どう盛り上げていくかが大切だと考えるが、何かアイディアはあるか？  
→ (都市計画課) 伝建地区に選定するという事は、そこに住まれている皆さんの生活とともにその地域を保存するという事で、地域の方の力が非常に重要となる。現在地域に保存活用実行委員会ができ、このまま放っておいたら空き家だらけになるという危機感を持って、活動を進められている。(まち歩き、写真展等) 今後伝建地区への選定に向けて地域の方と一緒に進めていく。
- 舞鶴の地域計画は「赤れんがモデルから舞鶴モデルへ」ということで、文化庁のハンドブックに載っている(校正の段階)。誰も見向きもしなかった赤れんがが、30年で70万人の観光客が訪れる施設となり、まさに保存活用のモデルとなっている。これを舞鶴のいろいろな施設に展開していきましょうという「舞鶴モデル」を打ち出しているが、吉原や収蔵庫についてもプロセスとして市民と一緒にやっていくことを意識して、中期の計画をあらためてしていくことが大切だと考える。
- 舞鶴の地域計画は先行して策定されており、全国的にも注目をされている。吉原で上手くいけば、赤れんがから広がっていると言える良い事例となる。
- 収蔵庫は民具が多くなるのではないかな？民具は使えないとただの物になってしまう。

使える形での利用を考えてほしい。

- 民具そのものが残されていくことも大切だが、日常的に利用することが出来なくなっている。日常生活で作り出すということ自体を保存する・そういう環境を作るということが大切。
- 大規模災害に備えたハザードマップや体制の構築について、現段階で考えていることはあるか？
  - (事務局) ハザードマップについては防災の担当課が作成している。文化財の保存状況を把握できていないのが大きな課題であり、現状は所有者にお任せしている状態。まずは保存状況を把握し、次のステップとして避難方法等を検討する必要がある。
- 祭礼用具についてもどこにあるのか把握する必要があると考える。
  - (事務局) コロナで祭自体が止まっていたが、また復活させようと頑張っておられる状態で、市としては補助金の支援等行っている。記録を残していくのも必要だと考えており、地元で撮影されたビデオの掘り起こし等実施していきたい。
- 祭礼は地域の大きな文化財である。防災と合わせて道具の保存についても地域と話し合いながら進めていただきたい。

- (事務局) 業績評価指標について、文化庁とも相談していく必要があると考えているが、基本的には市が評価しそれを懇話会で再評価していただく形で良いのか。
- 進捗管理には当然評価も含まれる。自己評価及び懇話会での点検・評価を実施していくものとする。